表1　多摩26市の事業系ごみ搬入手数料（2026年1月現在）

手数料水準（kgあたり）	市数	市　　名
43円	1	稲城市
42円	6	狛江市、府中市、国立市、 日野市、国分寺市、小金井市
40円	5	立川市、武蔵野市、あきる野市、 小平市、東大和市
38円	4	東久留米市、西東京市、清瀬市、 武蔵村山市
35円	7	三鷹市、調布市、東村山市、 八王子市、町田市、多摩市、昭島市
30円	3	羽村市、青梅市、福生市

（出所）「多摩地域ごみ実態調査」と各市ホームページの確認により作成。

表2　多摩地域事業系ごみ手数料の主な値上げの減量効果

市名〈改定年月〉	改定前年度	kgあたり改定	改定翌年度	減量率
府中市〈2007.4〉	14,329t	30円→42円	10,202t	－28.8%
東村山市〈2008.4〉	8,116t	25円→35円	6,139t	－24.4%
西東京市〈2009.10〉	8,935t	35円→38円	6,342t	－29.0%
日野市〈2011.4〉	6,588t	25円→42円	5,410t	－17.9%
武蔵野市〈2013.4〉	9,494t	20円→40円	6,272t	－33.9%
立川市〈2014.11〉	12,660t	30円→40円	11,035t	－12.8%
八王子市〈2015.4〉	39,066t	25円→35円	31,513t	－19.3%
町田市〈2015.4〉	28,157t	25円→35円	24,994t	－11.2%
多摩市〈2016.10〉	9,998t	25円→35円	8,418t	－15.8%
国立市<2020.4>	3,747t	27円→42円	2,994t	－20.1%
武蔵村山市<2021.7>	2,421t	25円→38円	2,203t	－9.0%
小平市<2023.4>	4,155t	24円→40円	4,085t	－1.7%
東大和市<2023.4>	2,344t	25円→40円	2,029t	－13.4%
昭島市<2024.4>	5,990t	30円→35円	5,989t	－0.02%

（出所）事業系ごみ量は「多摩地域ごみ実態調査」の持込量。

（解説）

表1は日本一高い水準にある多摩地域のkgあたり搬入手数料単価です。単価40円以上が12市あります。26市の平均単価は約37.8円です。

表2は近年値上げした15市(1円/kg値上げの稲城市を除く)の改定年月、改定単価、改定前後の事業系ごみ量、減量率を示しています。多くの市で2桁%減少しています。紙類、厨芥類など減少したごみの大部分が資源化ルートへ流れたとみられます。また、2020年度以降についてはコロナ禍の影響による事業系ごみ量の変動についても考慮に入れる必要があります。

その中で、一際目立つのが最近大幅値上げした小平市の減量率の低さ。4月に値上げ実施した2023年度をみても前年度比わずか2.3%減にとどまります。

市内は、まだ農地が散見されるなどのどかな住宅地域で、駅近くで繁華街の飲食店が賑わうというイメージではありません。こうした地勢や産業構造を反映して、総ごみ量に占める持込ごみ量(大部分が事業系ごみ)の比率は、多摩地域全体の16.3%に対して、わずか9.4%にすぎません。小平市の持込ごみ量を上下に人口規模が近い多摩地域2市と比較すると、ざっと1,800～2,500tも少ないです。こうした状況を踏まえ、価格感応度の極端な低さは、排出事業者の減量・資源化の取組みがかなり進んでいて、減量ポテンシャルが小さくなっていたことによるものかと推測しています。